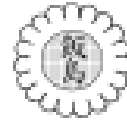


ひまわり

5月号 令和6年4月30日

横浜市立飯島小学校

生きるよろこび
学ぶ楽しさ
のびのび 飯島っ子

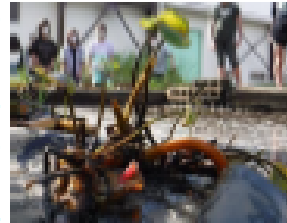


4月を振りかえる

校長 河原 洋之

南門を入ってすぐのところに、小さな池があります。近づいて水の中を覗くと、たくさんのおたまじゃくしが元気に泳ぎ回っています。もうしばらくすると蛙たちの合唱が始まりそうです。

その池に蓮を植える準備を学校運営協議会長の横川様が行ってくださいました。4月16日(火)の委員会活動の時間、横川様に教わりながら里山委員会の子どもたちが池に蓮を植えました。子どもたちにとって貴重な体験になりました。自然の多い飯島小学校にまた新たな名所ができました。蛙たちの憩いの場にもなりそうです。蓮の葉の上で休む蛙の姿を早く見てみたいです。



さて、蛙と言えば、4年生の国語の教科書に「春のうた」という詩が載っています。春になって土の中から出てきた蛙のうたです。蛙の鳴き声は一般的に「ケロケロ」や「グログロ」と表現されることが多いですが、この詩では「ケルルン クック」と鳴いています。春を迎えた喜びをこの鳴き声で表しているようです。

作者の草野心平さんは「蛙の詩人」と呼ばれ、蛙を題材にした数多くの詩を世に出しました。表現の仕方もユニークで、「おれも眠ろう」という詩では、眠ろうとしている蛙の様子を「るるり」と「りりり」の二つの言葉だけで表しています。

草野さんの詩の中に「世界一短い詩」があります。「冬眠」という題名の詩です。この詩は●だけで表現されています。●はいったい何を表しているのでしょうか。ぜひ、ご家庭でお子さんと話題にいただければ嬉しいです。



飯島っ子たちも土から出てきた蛙のように4月から始まった新しい世界を楽しんでいるようです。張り切って学習や当番などの仕事に取り組んでいます。そして、校舎内をまわると子どもたちの素敵な笑顔にたくさん出会います。

まだ4月だというのに夏を思わせるような日もありますが、何もかもが新鮮な春をもう少し子どもたちと一緒に楽しみたいです。